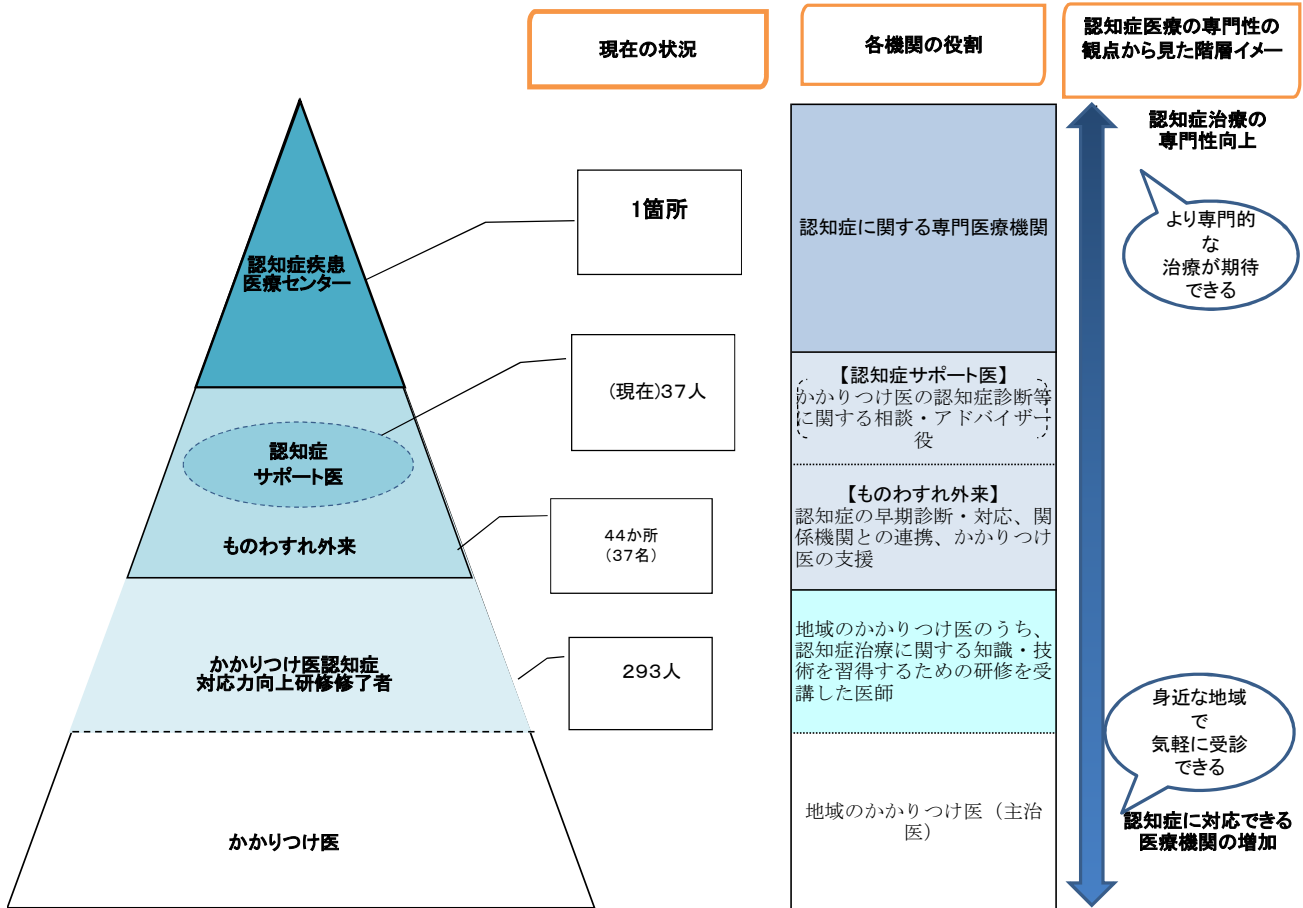


北九州市における認知症医療体制の役割(イメージ図)



(参考) 認知症初期集中支援チームについて

(社会保障審議会介護保険部会資料より抜粋)

【目的】

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的とする。

【認知症初期集中支援チームとは】

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的（おおむね6ヶ月）に行い、自立生活のサポートを行うチームをいう。

配置場所

地域包括支援センター等

診療所、病院
認知症疾患医療センター
市町村の本庁

認知症初期集中支援チームのメンバー



【対象者】

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する人とする。

◆医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する人

- (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない人
- (イ) 継続的な医療サービスを受けていない人
- (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない人
- (エ) 診断されたが介護サービスが中断している人

◆医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している

在宅医療・介護の連携推進の方向性

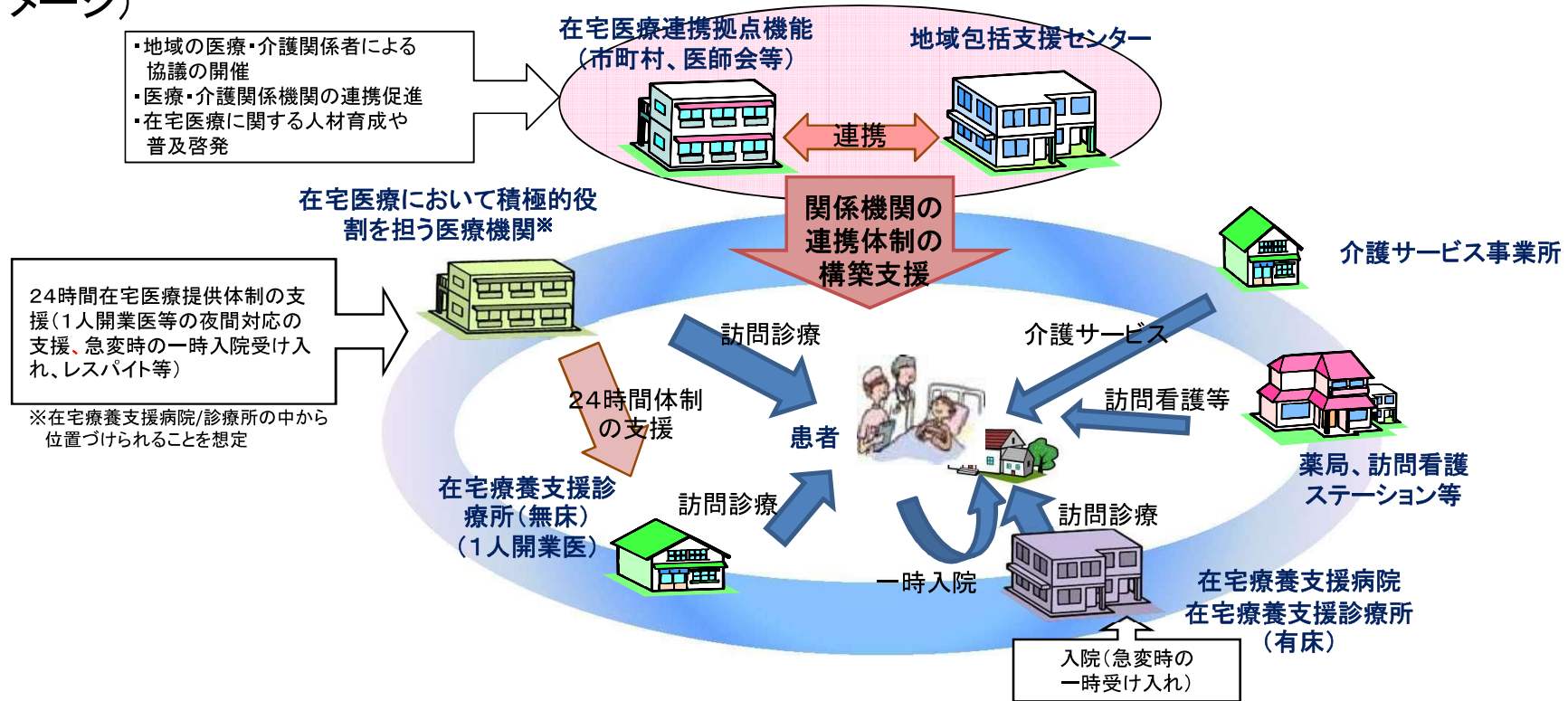
○ 疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けられるためには、地域における医療・介護の関係機関(※)が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことが必要である。

(※)在宅療養を支える関係機関の例

- ・地域の医療機関（定期的な訪問診療の実施）
- ・在宅療養支援病院・診療所(有床)（急変時に一時的に入院の受け入れの実施）
- ・訪問看護事業所（医療機関と連携し、服薬管理や点眼、褥瘡の予防、浣腸等の看護ケアの実施）
- ・介護サービス事業所（入浴、排せつ、食事等の介護の実施）

○ このため、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するため、市町村が中心となって、地域の医師会等と緊密に連携しながら、地域の関係機関の連携体制の構築を図る。

(イメージ)



「認知症サポーター養成講座」

1 事業概要

認知症になっても、本人や家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症を理解して、認知症の人やその家族を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組むために、平成18年12月より事業を開始した。

2 実施状況

年 度	18～21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合計
キャラバン・メイト	182	22	30	30	36	300
認知症サポーター	19,399	6,919	4,871	6,627	5,882	43,698
住民	11,755	3,999	2,793	4,462	3,414	26,423
企業	2,415	1,394	649	565	999	6,022
学校	596	1,392	1,234	758	691	4,671
市職員	4,633	134	195	842	778	6,582
合 計	19,581	6,941	4,901	6,657	5,918	43,998

※ 認知症サポーターメール登録件数：1, 140名

3 課題

- ・ 養成講座受講者数を増加させるために、学校や企業に対しても、積極的に働きかけていく必要がある。
- ・ 「認知症サポーター」を地域における支援者と位置付け、徘徊高齢者等の探索への協力など、その活用方法について検討が必要。

「認知症カフェ」のあり方について

1 要素

- ・ 認知症の人とその家族が安心して過ごすことができる。
- ・ 認知症の人が、病気であることを意識せずにすごせる。
- ・ 認知症の人にとって、自分の役割がある。
- ・ 認知症の人と家族が社会とつながることができる。
- ・ 認知症の人と家族にとって、自分の弱みを知ってもらえていて、かつそれを受け入れてもらえる。
- ・ どんな人でも自分のペースに合わせて参加できる。
- ・ 「人」が つながることを可能にするしくみがある。

2 特徴

- ・ 認知症の人が一利用者として利用できる場
- ・ 認知症の人とその家族がいつでも気軽に相談できる場
- ・ 一般住民が認知症の人やその家族と出会う場
- ・ 地域住民にとって「自分が認知症になった時」に安心して利用できる場を知り、相互扶助の輪を形成できる場
- ・ 一般の地域住民が認知症のことや認知症ケアについて知る場